

The 24th Clayteam セミナー

ものづくりは 時を超え、国境を越え

講演内容（ショートアブストラクト）※敬称略

●講演 1

「ISO におけるナノテクノロジー標準化とナノクレイ規格の動向」

小野 晃 [産業技術総合研究所 特別顧問]

ナノサイズの粘土材料（ナノクレイ）の魅力が国際的に注目されている。ナノ材料の国際規格を作っている国際標準化機構（ISO）第 229 技術委員会では、2015 年から新たにナノクレイ材料に関する国際規格の作成を開始したところである。ナノクレイ材料に関してどのような技術的ルール（規範）を設定すればグローバル市場で取引が円滑に行われ、製品への応用展開が加速されるかが焦点である。また国益の観点からは、日本のナノクレイ材料の品質の高さを際立たせ、かつ粗悪な材料との差別化が明確に行える国際規格が望ましい。本講演ではナノクレイ材料の国際規格策定の最新動向を報告し、日本の戦略的視点を考える。

●講演 2

「手仕事の技を繋ぐ～江戸時代の職人技から現代の工芸へ～」

小谷 竜介 [東北歴史博物館 学芸部 学芸員]

伝統的な手技の技術を現在では工芸技術と呼び、その際たるものとして、文化財保護法で認定される「人間国宝」がある。この工芸という言葉は、明治時代に生まれた言葉で、それ以前は単に「手仕事」と呼ばれた。本発表では、手仕事を担った職人の江戸時代のあり方を紹介した上で、明治時代以降の職人がどのように技術を伝えていったのかについて明らかにする。そして、現代においても必要とされる手仕事として、少数生産ができるという手仕事の特徴を見た上で、職人の技を後世に伝えていく必要性と、そのために求められる技術の中身について紹介する。

●講演 3

「東北地域におけるものづくりと地域中核企業創出・支援の取り組みについて」

佐竹 義美 [経済産業省 東北経済産業局 地域経済部 自動車産業室 技術係長]

人口減少と地域経済縮小を克服するためには、「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む「好循環」を確立することで、地方へ新たな人の流れを生み出すとともに、その「好循環」を支える「まち」の活性化に取り組む必要がある。これまで電気電子機器製造、食料品製造等の製造業が基幹産業であった東北地域におけるものづくりについて現状をご紹介するとともに、産学官連携等によるオープンイノベーションを活用した中核企業への成長促進支援・技術の高度化支援等の取り組みについて、事例をあげて紹介する。